

2012 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I 以下の(1)~(8)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(33点)

- (1) イスラーム諸侯の反乱の鎮圧や本国におけるベルギーの独立などの結果起こった財政危機の打開策として、東インド総督 ^① A によって導入された、コーヒー、サトウキビ、藍(あい)、タバコなどを耕地の一部に栽培することを現地の住民に強いる制度。作物はオランダ政庁が安価で買い上げ、輸出することによって莫大な利益を上げた。この結果、現地では米などの食糧不足が生じ、飢饉にみまわれた。
- (2) スペインがアメリカ大陸で採用した土地制度。先住民の保護とキリスト教化を条件に、植民者に先住民たちの土地を支配し彼らを使役することが認められた。過酷な労働とヨーロッパからもたらされた伝染病などにより、先住民の人口は激減した。修道士ラス=カサスは国王に報告書を送り現地の惨状を伝え、この制度の廃止^②を訴えた。結局、先住民の奴隷化は禁止され、この土地制度自体も世紀末には衰退した。
- (3) プロイセンの地主貴族であるユンカーなどの領主層が、それまで比較的自由であった農民を土地にしばりつけ、その農民の賦役労働を用いて輸出用穀物を作らせた制度。とくに B 川以東で発達した。結果として、この地域において商業都市の発展や市民層の成長が遅れる一因となった。
- (4) 古くからの自治組織で、農奴制が強化されてからは、租税や賦役の連帯責任を負い、農地の割り付けなども行った農村共同体。アレクサンドル2世のもとでの改革^③の後も残存した。後に、地主貴族出身の政治家 C は土地改革によってこの共同体を解体し、土地私有化を推進しようとしたが農民の抵抗にあい、目標を十分達成できずに暗殺された。
- (5) ヨーロッパでは相次ぐ戦乱と疫病の大流行による農村人口の激減に対処するため、地代の軽減や土地保有権の強化など、農民の立場を改善する動きが広がった。この過程で領主は地主化し、また農民は自由を拡大して、独立小生産者としての性格を

強めた。こうした領主制の弱体化の進行に対して、領主権力の復活を目指す動きが現れたが、これを 反動と呼ぶ。こうした動きはワット=タイラーの乱^④などの農民の反乱を引き起こす結果となった。

(6) ジャクソン大統領によって制定された法律により、先住民は 以西に追放され、荒地を与えられた。その一つであるサウスダコタ州のウーンデッドニーは、先住民であるスー族による最後の組織的抵抗が行われた場所であった。ウーンデッドニーで大量の先住民が虐殺されたこの年に、政府は「フロンティアの消滅」を宣言した。^⑤

(7) ローマ世界における、戦争捕虜を奴隷として使役する大土地経営。 戦争の混乱の中で急速に広まった。貴族や上層平民が征服によって得た土地を私有地化するなどして大土地所有者となり、奴隷を使って、オリーブや葡萄（ぶどう）などの栽培を行った。これは中小農民の農業経営を圧迫し、その没落の一因となった。

(8) ササン朝ペルシアやイスラーム勢力の侵入に備えて によって採用されたとされる軍管区制（テマ制）の下で、兵士や小農層に土地（世襲地）を与え、代償として兵役義務を課す制度（ただし軍管区制については少し後に始められたとの説もある）。結果として大土地所有は抑制され、徴税と徴兵の制度が整うとともに、自作農の増加により農村が活性化した。

【設問 I】 上記の(1)～(8)の文章中の ～ に入る最も適当な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 以下の(a)～(e)は下線部①～⑤を生起した時間順に並べたものです。正しい順序に並んでいる選択肢を選び、その答えをマーク解答用紙にマークしなさい。

- (a) ①—④—③—②—⑤
- (b) ③—④—①—②—⑤
- (c) ④—①—⑤—③—②
- (d) ④—②—①—③—⑤
- (e) ②—④—①—⑤—③

【設問Ⅲ】 以下の問いに対する答えを、マーク解答用紙にマークしなさい。

問1 上記の(1)の文章の内容を表す最も適切な語句を以下の【語群 A】から選びなさい。

問2 上記の(2)の文章の内容を表す最も適切な語句を以下の【語群 A】から選びなさい。

【語群 A】

- (a) アシエンダ制
- (b) ザミンダーリー制
- (c) ライヤットワーリー制
- (d) エンコミエンダ制
- (e) 恩貸地制度
- (f) 再版農奴制
- (g) アシエント
- (h) 開放耕地制
- (i) 強制裁培制度
- (k) シェアクローパー制

問3 上記の(3)の文章の内容を表す最も適当な語句を以下の【語群 B】から選びなさい。

【語群 B】

- (a) 古典荘園 (b) コロナトゥス (c) ヨーマン
 (d) イクター制 (e) 純粹荘園 (f) 四分統治制
 (g) ツンフト (h) 郡国制 (i) グーツヘルシャフト
 (k) 三長制

問4 上記の(4)あるいは(5)の文章のいずれかの内容を表す最も適当な語句を以下の【語群 C】から1つ選びなさい。

【語群 C】

- (a) クーリー (b) 第二次囲い込み (c) プレブス
 (d) ジンミー (e) 十分の一税 (f) ハラージュ
 (g) キヴィタス (h) ミール (i) 二月革命
 (k) 穀物法

問5 上記の(6)の文章にあるジャクソンは、最初の西部出身の大統領であり、資本の力を抑え社会の平等化に貢献し、民主主義を推進した。これはジャクソニアン=デモクラシーと呼ばれる。ただし、ジャクソンに対する反発も強かった。ジャクソンに対する反対派が結成し、後に他の奴隷制反対の小政党と合併して共和党へと発展した政党名を以下の【語群 D】から選びなさい。

【語群 D】

- (a) 労働党 (b) 自由党 (c) 進歩党 (d) 民主党
 (e) 連邦派 (f) トーリ党 (g) 国民党 (h) 人民党
 (i) 保守党 (k) ホイッグ党

問 6 上記の(6)の文章の内容を表す最も適切な語句を以下の【語群 E】から選
びなさい。

【語群 E】

- | | |
|------------------|------------------|
| (a) 保有地 | (b) マジマジの反乱 (蜂起) |
| (c) 植民地 | (d) 血の日曜日事件 |
| (e) ホームステッド法 | (f) 直営地 |
| (g) 保留地 | (h) カンザス・ネブラスカ法 |
| (i) クー=クラックス=クラン | (k) シャーマン反トラスト法 |

問 7 上記の(7)の文章の内容を表す最も適切な語句を以下の【語群 F】から選
びなさい。

問 8 上記の(8)の文章の内容を表す最も適切な語句を以下の【語群 F】から選
びなさい。

【語群 F】

- | | | |
|--------------------------|----------|----------|
| (a) 職業軍人制 | (b) 府兵制 | (c) 募兵制 |
| (d) ラティフンディア (ラテフィンディウム) | | |
| (e) 保甲法 | (f) 人頭税 | (g) 屯田兵制 |
| (h) 階層制 | (i) カリフ制 | (k) 従士制 |

II 以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(35点)

清は異民族王朝ではあったが、積極的に古くからの中国文化を重視し、世界の中心としての中華思想から抜け出せずにいた。自由貿易を求めるイギリスとのあいだに18世紀末から19世紀初めにおこった三跪九叩頭礼問題^①は、海外貿易をあくまで属国からの朝貢ととらえる中華思想の根強さを物語っている。

18世紀末から19世紀にかけて、イギリスはインドでアヘンを製造させ、本国の綿製品をインドに輸出してアヘンを購入し、インドのアヘンを中国に輸出して茶の代価にあてる三角貿易を開始した。アヘンは清朝初めにオランダ人によって中国にもちこまれたことがあったが、18世紀前半に康熙帝のあとをついだ(A)帝によって禁止されていた。三角貿易によってイギリスがインドから中国にもちこんだアヘンは、清朝政府の禁止令にもかかわらず次第に中国社会に広まった。イギリス国内では自由貿易を求める勢力が強まり、それまでの東インド会社の対中国貿易独占権が1833年に廃止され、多くの商社が中国へアヘンを運ぶようになった。その結果、逆に中国から大量の銀がイギリスにわたることになったのである。中国では16世紀後半から銀^②による納税がおこなわれており、銀価の高騰は農民にとって過大な負担を強いることになった。こうした事態を打破すべく、時の(B)帝は林則徐を欽差大臣に任命した。林は広州に赴き、アヘンを没収して焼却し、アヘン貿易を停止しないかぎりアヘン以外の貿易も許可しないという強硬策にうってでた。一方、アヘン貿易からの収益はすでにイギリス経済にとって大きな比重をしめていた。そこで、イギリスは1840年に遠征軍を送り、武力によって自由貿易を実現しようとした。これがアヘン戦争である。この戦争は、イギリス国内でも「不正義の戦争」^③として反対論があったが、すぐれた近代兵器を有するイギリス軍がはじめてから優勢にすすみ、1842年の南京条約によって終結した。この条約は、戦争の原因となったアヘン貿易についてはふれておらず、上海や広州など5港の開港や、広東の商人組合の(C)の廃止、香港の割譲、^④多額の賠償金など、中国にとって不平等条約の初めとなった。翌年に結ばれた虎門寨追加条約は、さらに中国にとって不利なものとなった。イギリスのこうした中国戦略にならって、アメリカは1844年に南京条約とほぼ同じ内容の(D)条約を結び、またフランスも同年に(E)条約を結んだ。1845年、開港場の上海にはじめてイ

ギリスが租界を設置した。

その後、1856年にいたり、フランス人宣教師が広西省で清朝官憲によって殺害されるという事件がおこった。また、同年にイギリス帆船アロー号が広州湾外に停泊中に海賊の嫌疑をかけられたことをきっかけに清朝官憲と衝突し、中国人乗組員が逮捕された。イギリス・フランス両国はこれらの事件をきっかけにアロー戦争（第2次アヘン戦争）^⑤をおこした。兵力に勝るイギリス・フランス軍は広州を占領して北上すると、清朝政府はその軍門にくんだり、1858年に (F) 条約を結んだ。この条約はキリスト教布教の自由や巨額の賠償金支払いなど、中国にとって屈辱的な内容であったために、条約の批准書交換のために赴いたイギリス・フランス両国の使節を大沽で砲撃する事件を起こし、ここにアロー戦争が再開された。結局、この戦争はロシア公使の仲介によって収束に向かい、新たに1860年に (G) 条約を締結して終結した。清朝政府はこれによって新たに香港の対岸の (H) 半島の一部をイギリスに割譲するなど、一層不平等な条約を甘受しなければならなくなったのである。

【設問Ⅰ】 上記の文章の(A)～(H)に入るもっとも適当な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 下線部①～⑤に関する以下の問の答を記述解答用紙に記入しなさい。

問1 下線部①について、清朝に貿易の拡大を求めて中国に入ったイギリスの政治家についての以下の説明文に該当する名前を書きなさい。

- (1) 18世紀末に三跪九叩頭礼を求められて拒否し、それでも時の皇帝に謁見を許可されたものの、清朝との貿易拡大は不成功に終わり帰国した。
- (2) 19世紀前半に北京に入り、三跪九叩頭礼を求められて拒否し、結局時の皇帝に謁見することを許されずに帰国した。

問2 下線部②について、この税制に関する以下の文が正しければRを、誤っていればWを書きなさい。

- (1) 明代後半から清初にかけて実施された一条鞭法は、はじめ北京一帯でおこなわれ、16世紀末までに全国にわたって実施された。

- (2) 16世紀後半からの中国内の銀の流通は、メキシコや日本からの大量の銀の輸入によっていた。
- (3) 一条鞭法にかわって清朝でおこなわれた地丁銀制は、田畑の所有に対して課す地税と成年男子に対して課す丁税を、別々に銀納する税制であった。
- (4) 一条鞭法にかわって清朝でおこなわれた地丁銀制は、17世紀前半にはほぼ全国で実施された。

問3 下線部③について、(1)アヘン戦争に反対した政治家でのちに4回も自由党党首になった人名と、(2)自由貿易の拡大を主張してアヘン戦争に踏みきった外相で、アロー号事件のさい首相の地位にあり、開戦を決断した人名を書きなさい。

問4 下線部④について、以下の説明文は上海と広州以外のどの港に関するものを漢字で書きなさい。

- (1) 南宋から元代にかけて発達し、一時鄭成功が清朝打倒の拠点としたことがあり、また20世紀前半には対岸の島に日本の租界もおかれた。
- (2) 五代十国の一つの閩の都であり、海外貿易で発展し、明代には市舶司がおかれた。南京条約後には茶の輸出港として発展した。
- (3) 浙江省東部にあり、明州とよばれて宋代には市舶司がおかれた。日本との交易や南海貿易の拠点として栄えた。

問5 下線部⑤について、このときのフランスの皇帝の名を書きなさい。

【設問Ⅲ】 清王朝時代には日本でも有名なきざまな文学作品が生まれたが、(1)曹雪芹によって書かれはじめ、主人公の賈宝玉を中心とした大貴族の生活を如実に描いた長編小説の名前と、(2)科挙に失敗した呉敬梓によって書かれ官僚の腐敗を鋭く暴いた長編小説の名前を記述解答用紙に漢字で記入しなさい。

III 以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

フランス革命やナポレオン戦争によるヨーロッパの宗主国における混乱に乗じて、19世紀前半、ラテンアメリカ諸国は相次いで独立を果たした。このとき、独立運動を率いたのは、クリオーリョと呼ばれる植民地生まれの白人指導者らであった。特に、コロンビア、エクアドル、ベネズエラを解放し、大コロンビア構想を実現しようとした や、アルゼンチンの軍人サン=マルティンらの功績が大きかった。

独立後のラテンアメリカ諸国では、頂点に位置する白人層が、本国出身者から植民地生まれへと変化したという点を除けば、貧富の格差が著しいそれまでのピラミッド型の社会構造が維持された。ピラミッドの底辺に置かれたのは先住民や、白人と黒人の混血者である ，および黒人である。独立後約半世紀にわたる新国家形成の時期は混乱を極め、カウディーリョと呼ばれる、軍事力を持った地域の領袖同士の抗争が絶えなかった。

1870年代には政治が安定化し、第一次世界大戦が始まるまでの期間、ラテンアメリカ諸国は経済の発展期に入った。この時期、各国では大土地所有者や鉱山所有者など一部の富裕層が寡頭支配勢力を形成し、彼らが積極的に外国資本を導入し、一次産品輸出を進めた。コロンビアやエクアドル、ブラジルなどの国々では、バナナやコーヒー、砂糖などの熱帯性農産物が大規模農場で生産され、メキシコやペルー、ボリビア、チリなどでは、銅や錫、硝石などの鉱山資源を中心に開発が進められた。このようにひとつもしくはごく少数の商品作物や鉱物資源に依存する 経済が、この時期に確立していった。

1929年に始まった世界恐慌は、そのようなラテンアメリカの経済に大きな打撃を与えた。先進諸国の経済が危機に直面すると、ラテンアメリカ諸国が生産する一次産品の国際市場は縮小した。外国資本と結びついた寡頭支配層の影響力は弱まり、社会は不安定化する。こうした状況の中、民族主義的な軍事独裁政権や社会改革政権が誕生した。また、このときのアメリカはラテンアメリカ諸国に対する外交政策を、武力を背景に露骨な干渉をする「棍棒外交」から、より友好的な 外交に転換した。

第二次世界大戦後には、アメリカが主導するパン=アメリカ会議の場において、南

北アメリカ諸国の集団安全保障を目的とした **E** 協定（条約）が締結された。さらに1948年にはボゴタ憲章に基づいて **F** が結成され、グアテマラの反革命工作などが行われた。

アメリカの強い影響力の下に置かれたラテンアメリカのいくつかの国では、反米的な民族主義をかけた、社会改革を目指す政権が出現した。ブラジルのヴァルガス政権や、アルゼンチンの **G** 政権である。またキューバでは1959年、カストロの指導する革命運動が、アメリカ資本と結んで腐敗していた **H** 独裁政権を倒した。革命政府が土地改革を行い、キューバのアメリカ企業を国有化すると、アメリカはキューバと外交関係を断絶した。これを受けてキューバは1961年に、社会主義宣言を発表している。^⑤

1960年代から1970年代にかけて、ブラジルやボリビア、アルゼンチン、ペルー、チリなどラテンアメリカでは多くの国で軍事政権が支配した。この背景には、従来の民族主義をかけた社会改革政権が保護主義的な工業化政策に失敗していたことや、ラテンアメリカにおける「第二のキューバ」の出現を恐れたアメリカが各国の保守勢力を支援し、軍部の政治介入を促したという要因があった。^⑥

1980年代は、ラテンアメリカ諸国にとって深刻な経済危機と民主化の10年となった。1979年に民政移管したエクアドルを皮切りに、ペルー、ホンジュラス、ボリビアと民主化の波が続いた。また、アルゼンチンの軍事政権も1982年にイギリスとの間で戦った **I** 戦争（紛争）に敗れると、翌年には民政移管した。1985年にはドミニカ共和国とブラジルが民主化し、チリでもそれまで軍事独裁政権を率いてきた **J** が1988年の国民投票で敗れ、1990年に民政移管が実現した。

【設問Ⅰ】 上記の文章の **A** ～ **J** 内に入る最も適当な語句を、記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅱ】 下線部①～⑥に関する以下の問の答を、マーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①に関する以下の文の中で誤っているものを1つ選びなさい。誤っているものがない場合は(e)を選びなさい。

(a) アンデス地方で先住民による反乱が起こり、南アメリカの独立運動に影響を与えた。

- (b) メキシコでは、イダルゴが先住民やメスティーソを率いて蜂起したが、これは現地の支配層に鎮圧された。
- (c) ブラジルでは、フランス軍の侵攻を受け避難してきていたスペインの王子が、皇帝に即位して独立を宣言した。
- (d) アメリカはモンロー宣言を出し、ヨーロッパ諸国からのアメリカ大陸への干渉を拒否する外交政策を打ち出した。

問2 下線部②について、サン=マルティンが独立運動を指揮した国として、当てはまらない国を1つ選びなさい。全て当てはまる場合は(e)を選びなさい。

- (a) ペルー
- (b) パナマ
- (c) アルゼンチン **A**
- (d) チリ

問3 下線部③に関する以下の文の中で誤っているものを1つ選びなさい。誤っているものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 先住民出身のファレスが大統領となり、メキシコにおける社会主義改革を急進的に進めると、これに反対する教会など保守派勢力との間で激しい内戦が起こった。
- (b) オーストリア皇帝の弟マクシミリアンは、ナポレオン3世に擁立されて、一時的にメキシコ皇帝となった。
- (c) マデロら自由主義者の武装蜂起によってディアス独裁政権が倒されて始まったメキシコ革命は、ラテンアメリカ初の本格的民主主義革命であった。
- (d) メキシコ革命では、貧しい農民らの指導者としてサパタやビリャが活躍した。

問4 下線部④への対応として、アメリカで実施されたニューディール政策に含まれないものを1つ選びなさい。全て含まれる場合は(e)を選びなさい。

- (a) 全国産業復興法
- (b) ワグナー法
- (c) テネシー川流域開発公社
- (d) 農業調整法

問5 下線部⑤について、この翌年に起こったキューバ危機に関する以下の文の中で誤っているものを1つ選びなさい。誤っているものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) ソ連がキューバにミサイル基地を設置しようとしたことをきっかけに、アメリカとソ連の間で、全面核戦争の危機が生じた。
- (b) ケネディ大統領がフルシチョフ第一書記にミサイルの撤去をせまり、ソ連はキューバの革命政権維持を条件に、アメリカの要求を受け入れた。
- (c) キューバ危機後、アメリカ・ソ連両国の首脳間を結ぶ直通電話回線が設置された。
- (d) キューバ危機後、アメリカ・ソ連にフランスを含めた3カ国が部分的核実験停止条約を結んだ。

問6 下線部⑥について、アメリカの中米カリブ海諸国への介入に関する以下の文の中で誤っているものを1つ選びなさい。誤っているものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) グレナダで成立した左翼政権は、アメリカのブッシュ政権の介入で倒された。
- (b) ニカラグアでソモサ長期独裁政権がサンディニスタ民族解放戦線によって倒されると、アメリカが介入し内戦に発展した。
- (c) グアテマラでは左翼政権が発足したが、国内のアメリカ系企業が反発し、CIAが扇動した反革命勢力によって政権は倒された。
- (d) エルサルバドルで政府軍対左翼ゲリラの間で内戦が始まると、アメリカは政府軍を支援した。